

▶執筆 人権教育課 (市役所内線 4012)

人権文化にあふれる社会を目指して

8月の「人権文化をすすめる市民運動」推進強調月間中に市内各地区で開催した人権講演会は、オンライン配信にも多くの申し込みがあり、初めて人権学習会に参加された方も多数おられました。記録的な暑さの中、ご参加いただきありがとうございました。

9月に入り、今度は自治会別の人権学習会が始まります。8月の講演会と同様、長年にわたり多くの自治会で続いている取り組みで、企画と運営は自治会長と人権教育推進員が中心になり、進められています。

内容については、高齢者や男女共同参画、障害のある人、部落差別(同和問題)、子ども、ヤングケアラーなど、さまざまな人権課題を地域の実情を踏まえて毎年考えています。

学習形態は講師を招いた講演会や人権落語、手話やアイマスクなどの体験活動、DVD視聴、意見交流などが中心で、中には市内の高校のポ



子どもと地域の関わりについて語る吉田タカシさん【8月6日/鹿野町公民館】

ランティア部による体験発表を計画している自治会もあります。

この町別人権学習会の開催当初から変わらない目的は、家族や隣人、地域の方々はもちろん、本人の安全安心な暮らしのためでもあり、言い換えれば、「一人一人が大切にされる安全安心なまちづくりのため」です。

出席者は40代以上の方々が多いですが、子育て世代や若年層の方々にもぜひ出席いただき、誰もが輝く魅力的で住みよいまちづくりのヒントを見つけていただきたいです。回覧や防災行政無線などで案内がありますので、ご確認ください。今年の秋は、ぜひ自治会別人権学習会で人権感覚を見つめる時間をつくってみませんか。



屋外展示のキハ30形車両



月曜日休館(祝日の場合はその翌日)、入館無料



大正10(1921)年に播州鉄道市原駅として建設された、モダンな洋館風の駅舎を当時の姿に復元し、鍛冶屋線に関する貴重な資料や写真などを展示する記念館です。
播州鉄道株式会社は明治44(1911)年に加古川流域の運輸のために設立されました。大正2(1913)年に加古川駅、西脇駅が開通。大正10(1921)年に西脇駅、市原駅が延伸し、大正12(1923)年に鍛冶屋駅まで開通しました。
その後、経営は播丹鉄道、国鉄、JRを経て、平成2年3月31日をもって鍛冶屋線(野村駅/現西脇市駅、鍛冶屋駅間13.2キロ)は60年余りの歴史に幕を閉じました。

ふるさとの魅力再発見ーにしわき歴史探訪 市原駅鉄道記念館(市原町)

▼問合せ 郷土資料館(☎235992)

市長からの手紙 西脇を元気に!!



降水量や気温などを観測する西脇市の気象観測所

西脇市の最高気温が8月、2日続けて全国1位に。気温は39.5度で県内の最高記録を更新しました。北播磨地域には三木市と西脇市に観測所が設置されており、へそ公園内にある西脇の観測所では、降水量や気温などを観測しています。北海道から沖縄まで全国約1300カ所の観測所のうち、西脇市が2日連続で全国1位になったことは、大変な驚きでした。そのような中、西脇消防署管内で熱中症

2日連続「ホットな街」全国1位!!



西脇市長 片山象三

により救急搬送された方は、昨年の同時期に比べると約1.5倍に急増。市では水分の補給などを呼び掛けていますが、熱中症を予防するには①腸を元気にする②自律神経のバランスを整えるなどのポイントがあるようです。腸の調子が良いと自律神経の働きが安定し、発汗や体温をうまくコントロールできるため、熱中症になりにくいとのことです。腸の環境を整えるといえば乳酸菌。市内にはピルクルを製造する日清ヨーク(株)さんの工場もあります。また、西脇市は先月、兵庫ヤクルト販売(株)さんと包括連携協定を締結しました。いずれも乳酸菌を含む飲み物です。まずは無理をせず、エアコンの効いた部屋などで過ごすことが大切ですが、健康意識を高めるとともに、熱中症になりにくい体づくりを心掛けてみませんか。これからは暑い日が続くと思いますが、工夫しながらともに乗り切りましょう。

みんなでまちづくりー市民の皆さんのまちづくり活動ー

まちなかから西脇市を元気に!

～市民活動支援団体「みんぐる」の取り組み～

「みんぐる」は市の委託を受け、まちなかのにぎわいづくりや市民活動の支援をしています。

子どもたちや地域の方々と一緒にまちなかにある交流広場の整備を行ってます。外から広場の中が見えるように窓や扉を新設したり、さまざまな方の憩いの場となるよう床マットを敷設したりと、自分たちの交流広場だと感じられる場所づくりを進めています。この広場に集まる多世代の方の交流や対話が、新たな活動へのきっかけの場となるよう運営していきます。



西脇の自然 606

イナカギク

きく科



田のあぜや野原ではなく、山に入った林道の崖に咲いており、山の日当たりの良い場所で見られます。

きく科にはよく似た仲間が多く、識別はなかなか難しいです。イナカギクの葉には葉柄がなく、茎から直接葉が出ているように見えます。葉の表面には細かい毛が生えていて、触るとビロード状(※)の柔らかい感じがします。同様に山で見られるシロヨメナとの識別点は、葉柄があり葉と茎が離れている、葉の表面に毛が無くつるんとしているなどです。

秋の野や田のあぜ道にはヨメナやノコンギクなど、よく似たキクが咲きます。天気の良い日に図鑑を片手にのんびりと歩いてみませんか。

※柔らかくなめらかな肌触り特徴とする織物

【西脇市動植物生態調査研究グループ】